



ロウヤガキ(老鴉柿) <カキノキ科・カキノキ属>

中国原産の落葉小高木。葉身は4~9 釐、葉の中央が広い菱形状。葉の裏には葉脈沿いに毛が生える。葉はカキノキより小さく薄くやや波打つ。花は6月。先が^{すぼ}窪んだスズランの花のような形をしている。果実は秋。幅約2 cmの先が尖った楕円形で橙色に熟し、普通の柿のように枝に直接付かずぶら下がる。雌雄異株。日本には、昭和になって観賞用として渡来。シブガキで食用にはならないが、庭木や盆栽用として人気がある。長めの萼(へた)を羽根つきの羽根になぞらえツクバネガキの別名も。・・・▼近所の庭で見つけたロウヤガキ。小枝にぶら下がって付く姿が何とも愛らしく、ひと枝頂く。▼深まる秋。たわわに実った黄金色の稲も刈り取られ、^{やまよるお}山装う季節を迎える。日は瞬く間に落ち、澄んだ夜空にはオリオンも輝き始める。時の流れの速さに戸惑いつつも、今を確かに。 ～2022年10月湯来町にて～